

応援に感謝！ 他自治体職員の災害派遣

9/17[Tue]~9/27[Fri]

8月の前線に伴う大雨による災害への支援として、佐賀県、唐津市、伊万里市、みやき町、玄海町、宮城県南三陸町から職員の派遣を受けました。

このうち、東日本大震災の復興支援を通じ、平成27年に「災害時における相互応援協定」を締結している南三陸町からは、被害状況調査の経験を持つ職員3人が派遣され、主に住家被害の程度を認定する調査業務を担っていただきました。

南三陸町の菅原大樹さんは「初めから想定して備える『事前復興』が大切ですが、どれだけ対策をしても想定を超える被害はあります。常に危機感を持ち、いざという時に行動できる心構えが必要です」と話しました。

また、9月24日には南三陸町 最知明広副町長が多久市を訪問され、横尾俊彦市長に南三陸町からの見舞金を手渡されました。

最知副町長は「東日本大震災の際は、多久市から多くのご支援をいただいたので、何かあればすぐにお手伝いしたいと思っていました。こうした協定を通じて、互いに協力し合いながら末長くお付き合いしていきたいです。必ず復興しますので、多久市のみなさんも一生懸命頑張ってください」と励ましの言葉を送られました。

現在も、佐賀県や日田市、鎌倉市などの自治体からの職員を派遣いただき、早期の復旧復興に取り組んでいます。



▲横尾市長に見舞金を手渡す最知副町長



▲実地調査を行う南三陸町の阿部克浩さん（左）

より安心・安全に 多久ロータリークラブがTAQUAにAED贈呈

10/ 3 [Thu]



▲目録を贈った江里口会長（中央）と外間千佳子（左）、古賀三也（右）

地域に根差した活動を行う多久ロータリークラブが、天山多久温泉TAQUA内の「交流スペース彩り」へ、AEDを贈呈されました。同クラブでは毎年、こうした地域貢献の事業を行われており、江里口尚子会長は、「地域のために何か支援をしたいと前年度から計画し、今回の贈呈に至りました。次年度に向けての支援計画も既にあります。こうした取り組みは絶やさず続けていこうと思います」と話されました。

贈呈式の後にはAED講習会も開かれ、ロータリーの会員とTAQUAのスタッフが使い方を学びました。